



心をつなぐ人をつなぐ

ココねっと

第62号



登録団体：123、登録個人：44（2022年2月現在）

「つながり回復を考える会」に参加して

市民活動センターココねっと
菅江 優子

コロナ禍にあって、市民活動においても活動自粛が続いています。人と人との「つながり」が重要な市民活動に大きな影響が生じています。そのような厳しい状況下において、NPO 法人とちぎ協働デザインリーグ主催の「つながり回復を考える会」に参加しました。この会では、県内の市民活動センター、社会福祉協議会、NPOなどのメンバーが参加し、全6回のオンライン会議において意見交換を進め、「コロナ禍で学んだこと」として以下の5項目についてQ&A形式で冊子にまとめました。

<p>○安心安全のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症は災害と同じ気持ちで付き合う覚悟が必要 ・新たなパンデミックの可能性があり、いざという時に備えることが必要 	<p>○つながりをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前からのつながりの危機 ・居場所、イベントなどを通してつながりを守る
<p>○団体の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションの低下や運営方法の悩みが深まった ・話し合いながら進めていくことの難しさや大切さ ・継続するためには変わっていくことも必要 	<p>○集まらないつながり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながりは対面以外でも可能であり有効であると同時に、対面の重要性の再認識 ・新しい時代にはオンラインが必須 ・複数の選択肢があり、柔軟な取組が可能
<p>○団体から外部への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要性や安全対策を積極的に発信する ・メンバー、支援者、サービスの相手方の理解を得る ・団体も孤立せずに協働して乗り越える 	



「つながり回復を考える会」で編集した40項目のQ&Aの中から一例を紹介します。

Q12. コロナ禍でボランティアやメンバーのモチベーションが下がってきています。

- A1. 小さなことでも、続けることにチャレンジしましょう。
 A2. コロナが原因ではないかもしれませんが、原点に戻って、目指していたものをもう一度確認しましょう。
 A3. ボランティアの創造性・先駆性を活かして、新しい活動を模索してみましょう。

皆さんはどうお考えになりますか。

作成した冊子は事務局で保管していますので、興味のある方はぜひご覧ください。

ココねっとにおいても、コロナ禍における利用制限が続いています。この状況の中で、“つながり回復”は市民活動の課題となっておりその解決が求められています。その解決に向けて、今年度から始めた「みんなのしゃべり場」を活かしていきたいと思っています。

1月実施予定であった利用者連絡会では、1面で紹介したつながり回復で学んだことを報告する他、地域で活躍する学生ボランティアの活動発表等を予定していましたが、コロナ感染拡大により残念ながら中止となりました。そこでこの場を借りて、「佐野市の子どもを応援する学生の会」の活躍をレポートします。

とちぎユースチャレンジ発表会



2月26日(土)、佐野市・足利市内の高校生を中心に活動する団体「佐野市の子どもを応援する学生の会」が参加した、ユースチャレンジ応援事業成果報告会がZOOMで開催されました。そこで、学生の会代表の山本朋果さん(佐野高校3年生)とイベント副実行委員長の笹村色織さん(佐野高校2年生)が発表しました。

学生の会の皆さんは、困難を抱える子どもたちが、たくさんの人とかかわる楽しさを感じることでできる交流の場を創出することを目的に「ふゆまつり」という季節のイベントを企画・実行しました。

「子どもたちに遠慮することなく楽しんでもらいたい」という言葉から、学生ボランティアとして子どもたちの心に静かに寄り添う姿勢がとてもよく伝わってきました。「次の世代の学生に引き継いでいきたい」と語る彼女たちの活動を、ここねっとも応援していきたいと思います。

ふゆまつり



12月19日(日)、佐野市役所1階市民活動スペースで開催された「ふゆまつり」について紹介します。

工作のブースは、さつまいものツタを使ったクリスマスリースと、ペットボトルで作る小物入れの2つが用意され、それぞれ担当の高校生たちが子どもたちと色や手順を相談しながら、一緒に作業を進めていました。

ステージを使ったビンゴ大会のブースには、可愛らしく袋詰めされたお菓子と景品が用意されていました。これらは高校生たちが、子どもたちの好きそうなキャラクターを考えて購入し、包装した物だそうです。

当日お話を伺った代表の山本朋果さんは、準備や当日の急な予定変更に対応することは大変としながら、会の活動は楽しいですかという質問に「すごく楽しいです!」と明るい笑顔で答えてくれました。

最後には高校生お手製のクリスマスケーキが会場に運ばれ、参加者にとっても、高校生たちにとっても笑顔溢れる時間となりました。



ここねっとの活動を報告します。



第4回 みんなのしゃべり場



12月11日(土)、ここねっとサロンにて、今年度4回目となる「みんなのしゃべり場」を開催しました。

この日は、市内の地域コーディネーターと社会福祉協議会から11名の方にご参加いただきました。

コロナ禍での活動の現状や、各学校での取り組み、地域と学校との関わりまで、経験豊富な皆様から様々な意見が出され活発な意見交換の場となりました。

地域コミュニティに深く関わる方々が、顔の見える関係となり、率直に意見を交わすことで連携が強化されていければと思います。

次年度も引き続き、様々な分野で活動する方々を繋ぐみんなのしゃべり場を開催してまいります。



市民活動パネル展



2月19日(土)と20日(日)、イオンモール佐野新都市にて、ここねっとの登録団体を紹介する市民活動パネル展を開催しました。コロナ禍にあってステージを使つての演奏や発表は実現しませんでした。この日のためにパネルを新しく作成したり作り直していただいた団体もあり、多くのパネルを会場に展示することができました。

当日は、多くの方が買い物の途中に足を止めて熱心にパネルを見ており、「佐野市でこんなに多くの団体が活動しているとは知らなかった」と話している方もいらっしゃいました。

今後も、登録団体の活動をより多く市民の皆さんに知っていただく機会を作っていけたらと考えています。



石塚小の皆さんから、約5kgのプルタブをいただきました！ありがとうございます！



ここねっとでは、プルタブとペットボトルキャップを回収し、車いすとワクチンを届ける活動に寄付しています。

NPO 法人子どもとない佐野



12月29日（水）NPO 法人子どもとない佐野は、「子育て世帯 応援物資配布会」を佐野市社会福祉協議会駐車場で開催しました。今年で2回目になる配布会のために、企業や団体、一般の方からのフードドライブで集められた食材を、スタッフやボランティアの方が丁寧に箱詰めしました。

「久しぶりだね。元気だった?」「しばらく見ない間に背が伸びたね。」「コロナに負けないように頑張ろうね。」スタッフや学生ボランティアが、訪れた人を温かい言葉で迎え入れ、この日用意した50家庭分の食材セットは全て配布できました。

新規登録団体

佐野市耕作放棄地利活用研究会



佐野市の中山間地域、多田地区で耕作放棄地の問題に取り組む団体です。

里山の豊かな自然を守るため、動物たちとの共存にむけて、代表の堀越悠斗さんを中心に、地域のご協力を得て活動しています。今年度は約4ヘクタールの土地に、栃木県の支援をうけて電気柵を設置し、水田の復活と、里芋やジャガイモの栽培などに取り組み、秋には一般の方にむけて収穫イベントも企画しています。堀越さんは「皆さんに気軽に参加していただきたいと思っています。」と話していました。

これからの予定

令和4年 3月24日（木）
推進委員会（書面開催）

令和4年 4月9日（土）
ここねっとオープンデー
・季節の折り紙～春～
・パソコンお悩み相談

令和4年 5月14日（土）
ここねっとオープンデー
ZOOM 講座

令和4年 6月11日（土）
ここねっとオープンデー
・季節の折り紙～夏～



ここねっとメールをご活用ください!



ここねっとでは、施設利用やイベントのお知らせをここねっとメールで配信しています。

登録を希望される方は、ここねっとへご連絡ください。



佐野市市民活動センターここねっと

〒327-0003 佐野市大橋町 3211-5
TEL/FAX 0283-20-5166
MAIL sanosc@sctv.jp
HP <https://www.kokonet-sano.jp>



開館時間 火～土 9:00～21:00
日・祝日 9:00～18:00
休館日 月曜日 / 12月29日～1月3日

編集後記



今回は、特集企画として“つながりを考える”というテーマを取り上げました。ここねっとでは、市民活動には“つながり”が大切なキーワードであると考え「みんなのしゃべり場」を展開しています。

この場が、皆さんの活動のコミュニケーションを後押しする場となればと思っています。皆さんが持つ、素敵な「ひらめき」や「資源」を持ち寄っていただければ幸いです。